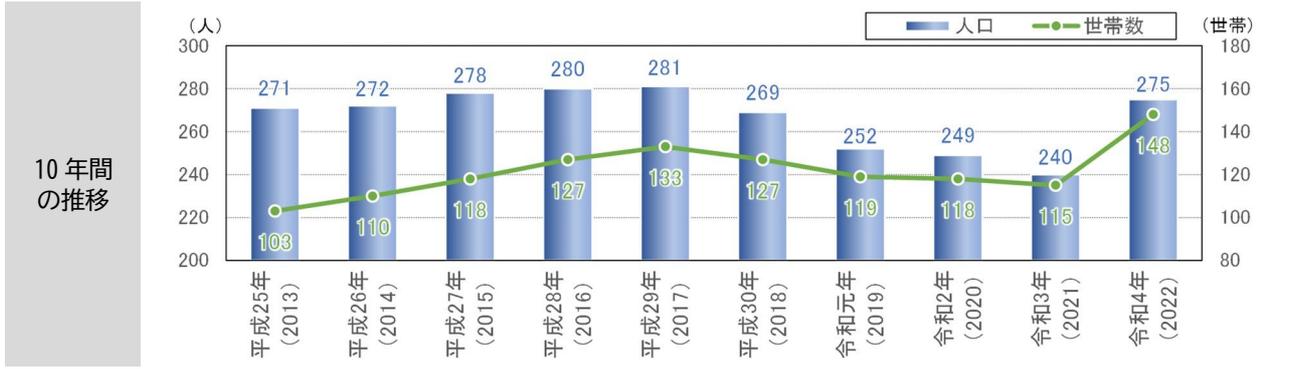


	世帯数	人 口	年齢別人口
現 在	148 世帯	275 人	15 歳未満 (年少人口) 21 人
			15~64 歳 (生産年齢人口) 177 人
			65 歳以上 (老年人口) 84 人
約 50 年前	72 世帯	337 人	



歴史等

北部の七種山は、『播磨国風土記』に「奈具佐山」として、その名が見られ、山中には七種の滝、笠岩やつなぎ岩などの奇岩があり、関西百名山やふるさと兵庫 100 山などに選ばれています。また、近世までは、金剛城寺の前身である作門寺があり、現在も山門が残っています。

古代律令制では播磨国神前郡高岡里、中世は高岡荘に含まれたと考えられます。近世は豊臣氏の領地となった後、慶長 5 年 (1600) からは姫路藩領となりました。慶応 2 年~明治 2 年 (1866~1869) に姫路の三宅屋庄蔵が新田を開墾し、これを七種新田といいます。『兵庫県播磨国地種便覧』によると、明治 14 年 (1881) の戸数は 74 戸・人口は 304 人でした。明治 22 年 (1889) に福崎村の大字となりました。

現在の氏神である田賀神社は、明治 30 年代頃に合祀されるまでは、北から春日神社、高山神社 (妙見宮に比定)、大歳神社という 3 つの神社でした。そして、その氏神を中心に氏子が住まいをしていたため、田口は南北に細長く、家屋が点在する集落となっています。



田賀神社



金剛城寺



石造地藏菩薩像 (金剛城寺)



秋祭り・屋台



作門寺山門と地藏



溜池新築記念碑 (田口奥池)

※現在の人口・世帯数・年齢別人口は令和 4 年 5 月末時点、10 年間の人口・世帯数の推移は各年 5 月末時点、約 50 年前の人口・世帯数は昭和 52 年 6 月末時点であり、いずれも住民基本台帳による値です。なお、年齢別人口のみ外国人を含む値になっています。

歴史文化遺産一覧

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり					
				①	②	③	④	⑤	⑥
建築物	1 金剛城寺本堂・仁王門・阿弥陀堂・護摩堂・客殿	近代	明治初年に七種山から現在地に移された。本堂は明治45年(1912)築。仁王門は昭和7年(1932)築。阿弥陀堂は18世紀前期頃の築と推定され、慶応4年(1867)に移築して大正3年(1914)に境内地内で移転。護摩堂は昭和9年(1934)築。客殿は昭和6年(1931)築。神崎郡内の宮大工が共同で造営にあたったと伝わる。				●		
	2 田賀神社	近代	木造平屋建て、瓦葺。近代の神社建築。田口区が所有・管理している。				●		
	3 作門寺山門	元禄14年(1701)	作門寺(旧金剛城寺)の山門。作門寺の伽藍の唯一の遺構。金剛城寺に残る作門寺仁王門の棟札銘文によると、元禄14年(1701)に建立されたとある。正面に阿吽形の仁王像が配置され、その後ろに「随神」が配置してあったと思われる。仁王像は現在の金剛城寺の総門に安置されているが、「随神」は所在不明である。				●		
石造物	4 石造地藏菩薩像	応永6年(1399)	高さ1m27cm、最大幅1m1cm、厚さ14~31cmの三角形の石板の中央に地藏菩薩坐像が刻まれている。左側下方に「応永六年二月 時正」(1399)右側下方に「一結衆等 敬白」とある。 【町指定有形文化財】				●		
	5 釈迦如来坐像(金剛城寺)	文化3年(1806)	釈迦如来の石仏。台座左右に造立年月日が記されている。				●		
	6 八十八所霊場石仏(大師庵)	大正期(1912~1926)	四国八十八所霊場札所の本尊を写した石仏を安置した小石祠。山の北側と南側の両方から登れるように配置されており、頂上部には石造三尊像が祀られている。				●		
	7 地藏菩薩立像(金剛城寺)	不明	地藏菩薩の石仏。				●		
	8 六地藏(田口尾崎家墓地)	寛保3年(1743)	六地藏の石仏。うち1基の正面には像容と造立年月日が記されている。				●		
	9 六地藏(田口高松家墓地)	文政6年(1823)	六地藏の石仏。うち1基の正面には像容と造立年月日が記されている。				●		
	10 六地藏(田口巡礼道)	文政12年(1829)	六地藏の石仏。うち1基の正面には造立年月日が記されている。				●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りや信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
建造物 石造物	11	弘法大師立像(大師庵)	不明	弘法大師の石像。				●		
	12	三界万霊塔(金剛城寺)	宝暦5年(1755)	地藏立像の台石。正面には「三界万霊」、右に造立年月日、左に「念仏講中」と記されている。				●		
	13	三界万霊塔(田口巡礼道)	寛政12年(1800)	正面には像容と造立年月日とともに「三界万霊」と記されている。				●		
	14	廻国塔(金剛城寺)	天明3年(1783)	地藏立像台石。正面には「奉納日本回国供養塔」、右に願主、左に造立年月日が記されている。				●		
	15	廻国塔(田口巡礼道)	文政元年(1818)	正面には行者の名等とともに梵字と「奉納大乘妙典六拾六部日本回国」、右に造立年月日、左に施主が記されている。				●		
	16	石鳥居(田賀神社)	文政3年(1820)	石鳥居。右柱正面には造立年、左柱正面には造立月日が記されている。				●		
	17	石灯籠(田賀神社)	延享2年(1745)	石灯籠。正面には「奉建御進前」、背面には造立年月日と施主が記されている。				●		
	18	石灯籠(田賀神社)	宝暦元年(1751)	石灯籠。正面には「奉立御神前」、背面には造立年月日と願主が記されている。				●		
	19	石灯籠(田賀神社)	寛政11年(1799)	左右一対の石灯籠。左右ともに正面には「御神灯」、右に造立年月、左に願主が記されている。				●		
	20	石灯籠(田口巡礼道)	不明	石灯籠。正面には「七種神社」、基壇の背面に8名の名が記されている。				●	●	
	21	狛犬(田賀神社)	昭和10年(1935)	石造狛犬。				●		
	22	香炉(金剛城寺)	不明	香炉。香炉台の正面には「奉献」、右に施主3名、左に「現住 宏俊代」と記されている。				●		
	23	溜池新築記念碑(田口奥池)	大正10年(1921)	正面には「溜池新築記念碑」と記されている。				●		
	24	記念碑(田賀神社)	明治39年(1906)	社寺関係記念碑。			●			
	25	宝篋印塔(金剛城寺)	安永3年(1774)	宝篋印塔。				●		
26	板碑(金剛城寺)	不明	地藏坐像の板碑。				●			
27	石段標(金剛城寺)	明治44年(1911)	左右一対の石段標。右柱正面に造立年月日、左柱正面に「宏俊代」と記されている。				●			

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり							
				①	②	③	④	⑤	⑥		
建造物	石造物	28	石室（田賀神社）	不明	石室。				●		
		29	道標（田口路傍）	昭和6年 (1931)	道標。正面には矢印とともに「右 丹後成相山 左 前之庄宍粟」、右には矢印とともに「右 七種山金剛城寺 左 福崎駅」と記されている。					●	
		30	道標（田口路傍）	不明	西国三十三所巡礼道の道標。正面には「しよしやより四里 此方志ゆんれいみち なりあい二十三里」と記されている。					●	
		31	町石（七種山）	不明	町石。正面には地藏立像の像容とともに「一丁目」の文字が記されている。				●	●	
		32	町石（七種山）	不明	町石。正面には地藏立像の像容とともに「従是本堂江 十三丁目」の文字が記されている。				●	●	
		33	石標（田賀神社）	明治39年 (1906)	石標。正面には造立年月とともに「一田反別三反九歩 寄附当村中」と記されている。				●		
		34	石標（金剛城寺）	不明	石標。正面に「七種山金剛城寺」と記されている。				●		
		35	百度石（田賀神社）	昭和18年 (1943)	百度石。				●		
		36	裁縫師匠墓碑（金剛城寺）	大正15年 (1926)	裁縫師匠墓碑。正面には梵字と「智徳院貞操妙寿大姉位」の文字が記されている。	●			●		
		37	峰の薬師地藏	不明	目の病気に効くといわれる。				●		
		38	第一期増築記念碑（田口奥池）	昭和25年 (1950)	大正5年（1916）の田口奥池竣工から44年目の昭和25年（1950）に堤防の補強工事が行われたことを記念して建てられた碑である。				●		
		39	舟石（金剛城寺）	—	昭和55年（1980）に発見された長さ190cm、幅80cm、厚さ33cmの舟形に反った花崗岩の舟石（枯山水の池泉式庭園の景観を高める素材として置かれた舟形の石）。			●			
	40	石造三尊像（大師庵裏山）	—	大師庵東の裏山の八十八所霊場石仏頂上部に位置する。向かって右から不動尊、金剛蔵王権現、神変大菩薩。				●			
その他の構造物	41	太鼓橋	—	七種神社の石鳥居をくぐった先に位置し、太鼓橋越しに「虹ヶ滝」を望むことができる。				●			

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり								
				①	②	③	④	⑤	⑥			
美術工芸品	絵画	42	源頼政鶴退治図(田賀神社)	文化2年(1805)	画家は「柏葉軒一峰」、奉納者は「氏子中」とある。120.5×191 cm。			●		●		
		43	飾馬図(田賀神社)	明治4年(1871)	奉納者は「当村氏子尾崎弥市」とある。66×81 cm。			●		●		
		44	題材不明図(田賀神社)	明治38年(1905)	奉納者は「尾崎まつ」とある。征露記念。剥落している。60.5×146 cm。			●		●		
	彫刻	45	仁王像(金剛城寺)	元禄14年頃(1701)	金剛城寺仁王門の阿形(237.0 cm)、吽形(238.5 cm)の像。かつては作門寺仁王門にあり、寺の移転とともに移されて、金剛城寺の阿弥陀堂に仮安置されたとされる。作門寺仁王門と同様に元禄14年(1701)頃の制作と思われる。現在の彩色は昭和7年(1932)の金剛城寺仁王門の建立に際して施されたものと思われる。						●	
		46	十一面観音像(金剛城寺)	—	『金剛城寺略縁起』によると、舒明朝に高麗僧恵灌が七種山滋岡寺(現金剛城寺)を建立した際、自刻の十一面観音像を本尊、千手観音と地藏菩薩像を脇侍として安置し、三論衆の寺としたと伝える。						●	
		47	千手観音像(金剛城寺)	—	『金剛城寺略縁起』によると、舒明朝に高麗僧恵灌が七種山滋岡寺(現金剛城寺)を建立した際、自刻の十一面観音像を本尊、千手観音と地藏菩薩像を脇侍として安置し、三論衆の寺としたと伝える。						●	
		48	地藏菩薩像(金剛城寺)	—	『金剛城寺略縁起』によると、舒明朝に高麗僧恵灌が七種山滋岡寺(現金剛城寺)を建立した際、自刻の十一面観音像を本尊、千手観音と地藏菩薩像を脇侍として安置し、三論衆の寺としたと伝える。						●	
	書跡・典籍・古文書・歴史資料	49	田口区有文書	—	2件(点数不明)。				●			
		50	金剛城寺文書	—	36件、36点。				●			
有形の民俗文化財	祭具	51	屋台(田口区)	昭和3年(1928)	布団屋根型屋台。昭和3年(1928)に姫路市白浜の麦本屋台製作所で新調。平成19年(2007)に、水引幕を修復、布団と天幕を新調している。						●	●
	その他の有形の民俗文化財	52	力石(田口公民館前)	不明	2個。51×39×31 cm、43×32×29 cm。いずれも切付無し。						●	

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
無形の民俗文化財 年中行事・ 民俗芸能	53	秋祭り（福崎）	—	福崎地区・高岡地区の屋台 13 台（布団屋根型 6 台、神輿屋根型 7 台）が二之宮神社に集まる。本宮では、宮元である山崎屋台が 12 台の屋台を JR 福崎駅前へ迎えに行き、福崎駅前で屋台が練り上げられた後、二之宮神社に宮入りする。拝殿で神事が行われ、五穀豊穡が祈願された後、宮出しが行われる。山崎の木方による合図で一斉に屋台が動きだし、練り合わせを行う「13 台サラバ練り」は見どころである。			●	●		●
	54	初詣	—	1 月 1 日に七種神社、田賀神社で行われる。二之宮神社の宮司による神事が行われる。				●		
	55	トンド	—	1 月 14 日に各隣保で行われる。				●		
	56	初午	—	初午の後の日曜に稲荷神社で行われる。子ども相撲が奉納される。				●		
	57	斎灯	—	2 月 3 日に田賀神社で行われる。現在は、午後 6 時に点火し、午後 10 時頃まで行われる。				●		
	58	春まつり	—	3 月彼岸前後の日曜に七種神社、田賀神社で行われる。				●		
	59	金比羅祭	—	4 月と 11 月の最初の日曜に金毘羅神社で行われる。子ども相撲が奉納される。				●		
	60	夏まつり	—	7 月 20 日前後の日曜に、七種神社、田賀神社で行われる。二之宮神社の宮司による神事が行われる。				●		
	61	盆祭り	—	8 月 14 日に集落センターで行われる。				●		
	62	地藏盆	—	8 月 24 日に大師堂で数珠練りを行い、無病息災を祈願している。				●		
63	お日待ち	—	11 月 30 日に田賀神社で行われる。無病息災を願い、火を焚く行事。本来は、日の出まで行われていたが、現在は 21 時～22 時くらいまでしか行われていない。				●			

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり							
				①	②	③	④	⑤	⑥		
遺跡	古墳・その他の墓	64	田口トツタニ遺跡	中世		●					
	散布地・集落跡・生産遺跡等	65	田口遺跡	中世		●					
		66	七種山散布地	中世		●					
	城館跡・神社跡	67	田口山城跡	中世						●	
	街道・古道等	68	西国三十三所巡礼道	—				●	●		
		69	七種道	—					●		
	戦跡	70	弾薬壕	昭和期							●
		71	弾薬壕	昭和期							●
		72	弾薬壕	昭和期							●
		73	弾薬壕	昭和期							●
		74	弾薬壕	昭和期							●
		75	弾薬壕	昭和期							●
	76	弾薬壕	昭和期							●	

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

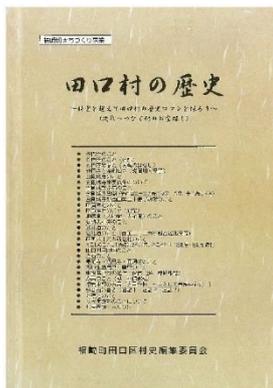
分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
名勝地	山岳	77	七種山	標高 681m。山中には屏風のようにそそり立つ金剛岩、岩山で弘法大師が護摩の秘法を行ったとされるつなぎ岩、岩盤浸食によってできた笠岩などの巨岩や、落差 70mに及び七種の滝などがあり、県名勝に指定されている。「風土記」に「七具佐山」と記されている名山。 【県指定名勝】		●				
		78	七種槍	標高 577.3m。遠くから見ると槍の穂先のように尖った形をしていることから七種槍と呼ばれる。七種山、薬師峯とあわせて七種三山と呼ばれる。		●				
	河川・滝	79	七種の滝	雄滝・雌滝以下 48 滝あるといわれる。雄滝は七種の滝を代表する滝で、水の流れが観音様に見えるところから「観音滝」ともいわれる。		●				
		80	七種川	七種の滝を源として南流し、市川に合流する。延長 5,924m。かつては大雨が降る度に洪水を起こした。普段はほとんど水がなく、「七種川と水の話」という民間説話が伝わる。田口では集落の中央を流れ、この河川をせき止めて灌漑用水に使っている。		●				
動物・植物・地質・地質鉱物	植物	81	コヤスノキ	七種山に自生地が見られ、コヤスノキの自生地の北東限と考えられる。 【町指定天然記念物】		●				
		82	七種山太鼓橋付近のタマミズキ	七種山太鼓橋付近に位置する。 【町指定保存樹】		●				
		83	オキナグサ群生	金剛城寺に見られる。4 月上旬～下旬が見ごろ。		●				
	地質鉱物	84	つなぎ岩	高さ 15m、幅 5m。岩の節理に添った削離が途中で止まり、巨大な 2 つの岩が底部で岩盤につながる奇観を呈している。『金剛城寺略縁起』には、嵯峨朝に空海が来寺してつなぎ岩の上で護摩秘法を修し、以後真言宗に改めたという寺伝がみられる。		●		●		
		85	笠岩	七種山の山頂付近にある笠岩は、水平に近い破れ目にそって岩盤が浸食されてつくられたもの。あたかも岩盤の上に巨岩が乗っているような姿で、落ちそうで落ちない岩として知られる。		●				

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りと信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

分類	名称	年代	概要	歴史文化ものがたり						
				①	②	③	④	⑤	⑥	
文化的景観	生活・生業・風土により形成された景観地	86	田口奥池	大正5年(1916)			●			
その他	信仰の場	87	金剛城寺	—				●		
		88	田賀神社	—				●		
		89	七種神社	—				●		
		90	妙見宮	—				●		
		91	大師庵(地藏堂・大師堂)	—				●		
		民間説話・地名・伝承地・屋号等		92	七種の種のはなし(七種の地名由来)	—				●
93	金取岩			—		●		●		
94	弁慶ののこぎり岩			—		●		●		

※歴史文化ものがたり：①学問・芸術文化のふるさと、②郷土の暮らし、③ため池・疎水と生業、④祭りや信仰、⑤人・物・情報の十字路口、⑥播磨のなかのふくさき

- ・「山あり川あり笑顔あり そやからおいでよ 七種の郷」をキャッチフレーズに、平成 21 年（2009）から地域史誌の編さんに取り組み、平成 23 年（2011）に『田口村の歴史』を発行しました。
- ・自立（律）のまちづくり交付金事業による地域のお宝再発見を契機として、峰の薬師登山、七種山登山、七種槍登山、作門寺ハイキング、七種神社ハイキングを実施し、次代へつなぐ村のお宝さがしを行ってきました。
- ・秋祭りの屋台については、田口区協議員、消防団が中心となって、昭和 3 年（1928）に新調し、平成 18 年（2006）に金網新調、泥台・本棒・脇棒等を修繕、平成 19 年（2007）に水引幕を修復、平成 19 年（2007）・平成 30 年（2018）に布団・天幕を新調、令和 2 年（2020）に太鼓を修繕してきました。



『田口村の歴史』の編さん